

## 兵庫県に於けるミドリシジミ類3種の 雌の斑紋について

広畑 政 己

はじめに

ミドリシジミ類の♀の前翅表にはいろいろな斑紋が現れる。大きく分けると、無紋のO型、中室端に橙色紋が現れるA型、1b室と中室に青色紋が現れるB型、橙色紋と青色紋が両方に現れるAB型の4つに分けられる。中には橙色紋が白くなるもの(AW型)や淡色のぼやけた紋(OA型)のものもあるので、はっきり4つの型に分けることは困難であるが、このように分けると、その地域での斑紋の傾向がよくわかる。そこで、兵庫県産のアイノミドリシジミ、メスアカミドリシジミ、ミドリシジミの3種についての斑紋の型を前述の通り4つのパターンに分け、まとめてみた。

ただ、この資料は限られた地域の、それも筆者の検視した数少ない個体を集計したものであるため、傾向として御覧いただき、今後多くの産地の個体の傾向値を加えていただくことにより不備を補いたいと願う次第である。この小文をまとめるに当り木村三郎、岩村巖、佐々木薫、石井為久、相坂耕作、黒田収、徳岡正己、松尾隆人、近藤伸一、高嶋明、森下泰治の諸氏には何かと御協力いただいた。ここに記して感謝の意を申し上げる。

### 1. ミドリシジミの雌の斑紋

本種の♀は北海道では必ず青色紋が現われ、B型あるいはAB型が多い<sup>1)</sup>。また、東北でも青色斑が現れる個体が多いがO型がまじり、中部以西の本州ではO型が多く、B型はO型やA型に比較して少なくなる。九州では再び、必ずB型が現れるようである<sup>1)2)</sup>。

県下に於てはこれまでO型が多いことは周知のことであるが、どの地域でどれだけウェートを占めるかということは明らかにされていなかった。そこで、筆者の手の届く限りの産地の個体を検視し、集計する作業に入ったわけであるが、O型にするかA型にするか判断に苦しむような個体もあり、A型に於ても斑紋が1つか2つかははっきりしないもの、また、斑紋がほんの少しある程度のもなど区分するには極めて困難であった。しかし、4つに分けるためには、いずれかに入れなければならないので、OA型はO型に分類し、青色紋がたとえ少しでもあるものはB型として上げた。

従って、明確に基準がないまま、筆者の判断で分類しているの、あいまいな資料となっていることを御了承いただきたい。また、兵庫県でも南西部だけのもので、北部、東部はどのような斑紋の傾向があるのか不明である。

ここでまとめた南西部の傾向としては、O型が約50.3%と一番多く、B型が35.1%とこれに続き、A型とAB型はほぼ同じ比率の7.6%と7.0%となっている。B型AB型については、はっきりと現れた個体もあるが全般的に不鮮明である。また、産地別にながめると際立った差異は認められないが、姫路市砥堀ではAB斑が現われたものは1頭で、夢前町菅生潤ではA斑は31頭中全く現われていない。これらの地域ではO型とB型が主力のようである。また、相生市の光明山、龍泉でAB型がなく、O型、A型、B型の3型となっている。AB型の比較的多い地域は、社町下久米と福崎町東田原で、下久米が14%、東田原が12%の比率で現われている。

いずれの産地も調べた個体数が少なく、この通りではないかもしれないが、さほど違いはないものと思われる。

### 2. アイノミドリシジミの雌の斑紋

中部地方以北の♀はA型が普通で、稀にAB型、O型が現われる<sup>1)</sup>。関西以西ではAB型が多く、しかも斑紋が大きく鮮明である<sup>3)</sup>。稀にB型も得られる<sup>1)</sup>。九州産のB斑、中国、四国産のA斑は特に大きく発達することが知られている<sup>3)</sup>。

前記のごとく、兵庫県に於てはAB型の個体が普通で、調べた個体88頭中93.2%がAB型で残り6.8%がA型となっており、O型、B型はない。A斑は2つ現われた個体が4頭、3つ現れた個体が2頭あるが、1つだけの個体はない。B斑もヒサマツミドリシジミのようにはっきりしたものから1b室に不明瞭に出たものまでいろいろである。おおまかに分けると、はっきりした個体とそうでない個体は半々で、はっきりした個体はA斑も大きく鮮明である。大屋町横行産は検視した個体も少ないが、A型の個体は16頭中発見できなかった。また、88頭中、後翅表後縁角部に橙色斑が現れた個体が関宮町福定と大久保でそれぞれ1頭づつあった。

A斑B斑の出現の状態をもとに小さく分けると10数型になるが、A斑は2型とB斑ははっきりしたものど淡いものの2型に分け表2にしている。検視した産地の数、個体数も少ないので、前述以外にO型、B型があるかもしれないが、傾向としてはAB型が主力となっている。

表1. 兵庫県南西部に於けるミドリシジミ雌の斑紋







産地名	雌前翅斑紋							計
	型	O 型	A 型		B 型	A B 型		
相生市光明山		10	1	1	5			17
〃 龍泉		10	1		8			19
姫路市御立		8	1		4	1	1	15
〃 砥堀		10			8	1		19
福崎町東田原		10		4	9	1	2	26
社町下久米		14	1	4	17	3	3	42
西脇市塚口		2						2
夢前町菅生潤		22			9			31
斑紋別計		86	4	9	60	6	6	171
型別計		86	13		60	12		171
%		50.3	7.6		35.1	7.0		100

表2. 兵庫県に於けるアイノミドリシジミの雌の斑紋








産地名	雌の斑紋							計	
	型	A 型			A B 型				
生野町柘原			1	4		11		16	
関宮町福定		3	1	18	5	8	5	40	1
〃 大久保		1			1	9	1	12	1
一宮町縦ノ木林道						2		2	
大屋町横行				9	3	2	2	16	
温泉町扇ノ山					2			2	
斑紋別計		4	2	31	11	32	8	88	
型別計		6			82			88	
%		6.8			93.2			100	

表3. 兵庫県に於けるメスアカミドリシジミの雌の斑紋

産地名	雌の斑紋					計		
一宮町 福知			56	30		86	3	
〃 草木	2		12	4		18		
〃 百千家満			8	5		13		
神崎町 根宇野			2	1		3		
〃 作畑新田			7	2		9		
山崎町 梯			20	9		29		
〃 河原山			9	7		16		
夢前町 雪彦山			6	1		7		
佐用町 上石井				1		1		
千種町 木地山			1	1		2		
〃 三室山					1	1		
波賀町 赤西			1	4		5		
生野町 柄原	1		47	27		75		
加美町 三国山			2			2		
関宮町 杉ヶ沢			10	11		21	2	1
〃 福定			6	5		11		
大河内町 砥峰			5			5		
〃 深山				2		2		
山東町 与布土			1			1		
計	3		193	110	1	307	5	1
%	1		62.9	35.8	0.3	100		

### 3. メスアカミドリシジミの雌の斑紋

本種の雌の前翅表の橙色斑はクライシ現象を示し、北海道産では大きく発達し、南西日本では小さくなり、九州では消失する個体がある<sup>3)</sup>。また、中部地方より北の産地のものの橙色斑の発達した個体は、後翅表後角部付近や中室付近に小さい橙色斑が現われることがあ

る<sup>3)</sup>。これが国内の本種の斑紋の傾向であるが、県下ではどのような斑紋の個体があるのかを各産地ごとにO型とA型を4つに分け、5つのパターンに分類してみた。

前種2種同様、いざ分けるとなると、どの型に分類するか迷う個体も多かったが、橙色斑として認めにくい程淡い個体については1ランク下げて集計している。

檢視した 307個体の中ではA斑が発達し、3つの橙色斑がつかなくなったような個体は千種町三室山産の1頭だけで、その他は橙色斑の発達は弱く2ヶ~3ヶの個体がほとんどである。また、橙色斑が1ヶの個体は19産地の中ではなく、一宮町草木と生野町柄原では0型が見られた。これは307個体中わずか3頭である。

橙色斑が2つの個体と3つの個体では2つが62.9%と比率で多い。珍しいところでは後翅表後角部に橙色斑が現れた個体が杉ヶ沢で2頭、福知で3頭ある4)。また、後翅中室端に現われた個体が1頭見られた。

〈参考文献〉

- 1. 藤岡知夫(1972)図説日本の蝶 ニューサイエンス社 東京
- 2. 藤岡知夫(1975)日本産蝶類大図鑑 講談社 東京
- 3. 川副昭人・若林守男(1976)原色日本蝶類図鑑 大坂
- 4. 花岡 正(1981)メスアカミドリシジミ雌の斑紋 てんとうむし(7):39

(S28:Masami Hirohata 〒671-22 姫路市 )

フタスジカタビロハナカミキリ

花岡 正

兵庫県下の新採集地の状況を報告する。

春に出現するギフチョウの様に産地が限定され、発生期間も短かく美麗なので人気の高い大型のハナカミキリである。

①産地：扇ノ山、赤西溪谷、音水溪谷、氷ノ山山系で採集されているが、筆者は藤無山山系でも採集した。1985年5月12日、15:00位に宍粟郡波賀町道谷、藤無山山系にて2♂1♀をヤマシャクヤクの花の中から採集した。

②出現期：5月初旬より、標高の低い赤西溪谷から音水溪谷、藤無山、氷ノ山山系へと出現してくる。

6月初旬まで見られる年もある。

③採集状況：ヤマシャクヤクに訪花中の個体が多いが中には葉上、根際、飛行中(飛ぶ早さはカナブン位いで羽音も高い)変った所ではタニウツギのビューティングでも採集されている。ヤマシャクヤクの花の中では交尾中のものなどペアで採集される個体が多い、最高9頭まで採集した。

(S.19:Tadashi Hanaoka 揖保郡太子町 )

初冬の蝶の一日 (セイトカアワダチソウの花に集まる蝶)

近藤 伸一

1985年11月3日加古川市北在家の空地で1日中蝶の観察を行った。観察場所は加古川市役所の南に隣接した縦10m横100m程度の広さの野外駐車場で、中央部に砂利が敷かれ、ヨモギ、ヌスビトハギ、芝、ススキ、イタドリ、ギシギシ、ニワホコリ、スズメノヒエ、セイトカアワダチソウ、カタバミ等が周囲をとりかこむように繁っていた。当日は快晴で風もなく、セイトカアワダチソウがちょうど満開で、この花に蝶が1日中吸蜜に訪れた。

コンクリート建築物やアスファルト道路に覆われた市街地では、このような空気が昆虫にとって大切なオアシスとなっている。

20分間隔でこの空気を1周し、観察した蝶は7種延べ152匹であった。時間ごとの蝶の活動の様子を飛行中、吸蜜中、静止と3種類に分け次表にした。キチョウとチャバネセセリが吸蜜に特に熱心であった。蝶の種類ごとに、活動時間帯、吸蜜の時間帯が少し異なるようである。

蝶の活動の様子 1985.11.3.

	ヤマトシジミ	ベニシジミ	モンシロチョウ	キチョウ	モンキチョウ	カタタハ	チャバネセセリ	計
10:00	△3 △1	×1	○2					△3 △1 ○2
:20		×1	△2	△1	○1		○2	△2 △1 ○1 ○2
:40	○5 ×1			△2			△1	○5 ×1 △2 △1
11:00	○1	×1		△2			△2	○1 ×1 △2
:20	×4		△1	△1			△2	×4 △1 △1 △2
:40	△7		△1	△2			△3	△7 △1 △2 △3
12:00	○6	△1	○2 △2	○1 △1	○1			○6 △1 ○2 △2 ○1
:40	○4	△1	○1 △1	○1 △1				○4 △1 ○1 △1
13:00	○1	△1	○2 △1	△1			×2	○1 △1 ○2 △1 ×2
:20	○4 ×2		○2 △2	○1			○1 △4	○4 ×2 ○2 △2 ○1 △4
:40	×1	×1	○3	○1			△3	×1 ×1 ○3 ○1 △3
14:00	○2	○1	○1	○1			×1	○2 ○1 ○1 ○1 ×1
:20	○1	△1	○1	○1				○1 △1 ○1 ○1
:40	○6 ×1		○1 △2				×1	○6 ×1 ○1 △2 ×1
15:00	○7							○7
:20	○2					×1		○2 ×1
:40	×2							×2
:1	×1							×1
計	△51 △15	○1 △4 △4	○17 △11 △0	○5 △11 △0	○2	×1	○7 △18 ×6	△81 △28 ×6

(S62: Shinichi Kondo 神戸市 )